

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成26年7月31日現在

## 今月の重点活動

### ■柿 摘果研修会

7月4、5、7日に岐阜市、13、16日に本巣市、11日に北方町において、計12箇所でJAの協力の下、摘果現地研修会を実施した。農業普及課は、今年の生理落果が少なく、着果過多になりやすい傾向を踏まえ、果形が良く大玉となる果実を選んで摘果するよう指導した。摘果終了後、摘果状況を検査して、仕上げ摘果徹底を図ることとしている。



【講習会の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー 栽培研修会

7月4日に、JAぎふ北方支店において、秋冬ブロッコリーの栽培研修会を開催した。農業普及課は、商品率85%以上を目標に、ほ場選定、排水対策、灌水、追肥のタイミング及び中耕培土の重要性を説明した。



【栽培研修会】

## 売れる農畜産物づくり

### ■水稻 特別栽培米

根尾地区では特別栽培米のコシヒカリを「根尾米」として作付している。農業普及課では、7月8日に4か所設置した生育調査ほについて調査した。茎数は確保されており順調に生育していることが確認され、幼穂長調査から出穂期は昨年並みと予測し、JA営農指導員を通じて生産者へ追肥作業について指導した。



【生育調査ほ】

### ■いちご 天敵放飼で優良苗生産

農業普及課では、いちご生産者に優良な苗を提供するため、親苗施設の環境改善に取り組んでいる。7月4日と8日に、ハダニ類の防除回数を削減するために、天敵のチリカブリダニの放飼を行った。今後は天敵の定着度合とハダニ類の寄生頭数の調査を行い、優良親苗生産を支援する。



【天敵の放飼】

### ■だいこん 意見交換会及び栽培研修会

7月11日、JAぎふ則武支店において、JAぎふだいこん部会の意見交換会と栽培研修会が開催された。今年は、昨年より単価は良かったものの90円を切る安値で、生産者には2年続きの厳しい状況となった。農業普及課では、今年問題となった病害虫、GAPの取り組み結果、だいこんづくりの基本となる土づくりについて指導を行った。



【栽培研修会での指導】

## ■かぶ、だいこん **栽培研修会**

各務原市のJA集荷施設において、7月11日にかぶ、7月15日にはだいこんについて、秋冬作栽培研修会が開催された。農業普及課は、にんじんととの複合経営に重要な品目として位置づけており、夏から秋の栽培は生育期間が他の作型より短いものの、台風や病害虫の被害を受けやすく難しい作型であるので、防虫ネット被覆や適期防除を行うよう栽培管理指導を行った。



【大根研修会の様子】

## 戦略的な流通・販売

### ■ふれあいバザール **鳥獣害防護柵を活用した野菜栽培研修会**

山口市柿野地区では、小規模高齢化集落モデル地域の活動として、3月に鳥獣害防護柵を設置してスイートコーン、さつまいも、桑の木豆等の栽培を進めている。7月15日に、直売所の品揃えを充実させたいふれあいバザール、鳥獣被害を回避して農産物生産を振興させたい市及びJAと協力して、野菜栽培研修会を開催した。農業普及課は、室内及び現地ほ場において秋冬野菜の品種選びによる作期拡大等について指導した。



【柵の中での研修会】

### ■加工キャベツ **栽培指導（各務原市、羽島市）**

7月8日にJA蘇原支店において、栽培希望者向けの研修会を開催した。農業普及課は、栽培暦の品種選択及びポイントとなる適期定植を指導した。各務原市では栽培者が5戸増え10戸に、面積も1ha増えるため、全農からの自動定植機のリース機も加えて対応する。また、羽島市でも春の試作から手応えを得て、冬作で40a栽培することとなった。



【昨年は37℃の中で定植】

## 多様な担い手の育成・確保

### ■えだまめ **えだまめ塾**

7月15日にJA曾我屋えだまめ選果場と隣接ほ場において、えだまめ塾を開催した。農業普及課は、塾生5名とJAの新規職員2名に対して、えだまめ選果場の見学と5月に定植したえだまめの収穫と選別の実習を行った。塾生の中には既に防虫ネットを購入して試作を開始している人もあり、意欲的な質問が多く出された。



【えだまめ塾】

## 魅力ある農村づくり

### ■集落営農 **青波地区集落営農システム確立検討委員会**

7月8日に、山口市下北切生活改善センターにおいて、第1回検討委員会が開催された。地元生産者6名、JA美山南支店、山口市、農林事務所（農業振興課と農業普及課）で構成する検討委員が集まり、地域の今後について検討した。市役所から地域を支援する国制度の紹介、農林事務所からは8月19日に開催する集落営農塾について説明した。



【検討委員会】